

## ⑦桂川流域災害復旧事業 (災害復旧助成事業、河川災害復旧等関連緊急事業)

受賞機関 福岡県 朝倉県土整備事務所

**キーワード** 災害復旧、多自然川づくり、学識者との対話

### 全建賞審査委員会の評価ポイント

平成29年7月九州北部豪雨による浸水被害への対策として、河道拡幅や橋梁架替などを実施。再度災害防止のため、早期の事業完了が求められる中、環境調査で生息生物を確認し、桂川の瀬やワンドなど、河川環境特性を踏まえた設計を行った。多自然に配慮した川づくりを丁寧かつ迅速に進めている点が評価された。

### 1. はじめに

桂川は、福岡県朝倉市荒田にその源を発し、山地部を貫流し、大分自動車道下流の水田地帯にて左支川妙見川、右支川新立川、荷原川を合わせて筑後川へ合流する一級河川である。

桂川流域では、平成29年7月九州北部豪雨により3箇所ですべて堤防が決壊するなど、浸水面積約1,098ha、浸水家屋796戸の甚大な被害が発生した。

この豪雨を契機とし、本県では桂川流域の支川を含むほぼ全管理区間において、災害復旧助成事業並びに河川災害復旧等関連緊急事業を活用し、平成29年度から大規模な河川改修事業を実施した。

### 2. 事業の概要

2つの事業の総延長は約28.7km、総事業費は約607億円であり、流下能力を確保することを目的に、河道拡幅、築堤、護岸整備、遊水地整備、橋梁・堰の改築などを実施した。

桂川における過去の調査では、九州在来のタナゴ類が6種類すべて生息していることが確認されている。タナゴ類は、種類により異なる生息環境を好むことから、一つの河川ですべて生息していることは非常に稀であり、桂川が以前から多様な河川環境を有していたことがうかがえる。このことから、事業の実施に当たっては、多自然川づくりアドバイザー制度を活用し、学識者と協議を重ね、事業計画を策定した。

事業を進めるに当たっては、タナゴ類の中で特に絶滅の可能性が高く、国内希少野生動植物種に指定されているセボシタビラの保全を主な目標とした。

セボシタビラは、二枚貝を産卵母貝さんらんぼがいとすることから、二枚貝を工事の影響を受けない近隣の河川等に事前に一時的に避難させ保護した。また、セボシタビラは、流れのある瀬を好むことから、河道掘削後に転石や木杭による補助工法を設置することで環境の早期復元を図った。さらに、九州大学及び環境省の協力のもと、セボシタビラ

の個体を一時的に保護し、人工繁殖により個体数を増やし、事業完了後に放流する取組も行っている。



木杭による瀬の創出

### 3. 事業の成果

令和5年7月の大雨では、九州北部豪雨の4分の3程度の累加雨量を記録したが、本事業の効果もあり、家屋の浸水被害は発生しなかった。

また、河川環境については補助工法の効果もあり、良好な環境が確実に形成されている。事業完了後の環境調査では、完了直後と比べ確認された魚類の種数が増加している。

一方で、保全を目標としていたセボシタビラについては、生息が確認できた地点がまだ少ないこともあり、引き続き注視していく必要がある。



改修前後の桂川の様子

### 4. おわりに

本事業は、災害を契機として短期間で大規模な河川改修を行うものであり、良好な河川環境の保全は非常に困難であったが、学識者の意見を踏まえ、復元の取組に努めたことにより、元の桂川の環境が回復しつつある。今後も目標とする河川環境の実現に向けて取組を継続していく所存である。